

1. 科目名 (単位数)	家庭 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2309
2. 授業担当教員	杉山 憲江		EDEL3309
4. 授業形態	講義、実習など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「家庭科指導法」より前に受講するのが望ましい。		
7. 講義概要	小学校の家庭科の授業を行ううえで必要となる家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活・環境に関する基本的事項について解説するとともに実習などを行い、専門的な知識および技能を身に付けることを目的とし授業を展開する。また、新学習指導要領 (平成 29 年告示) を踏まえて、小学校家庭科の基本方針と内容構成についても解説する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の授業を担当するために必要な家政学・生活科学全般の基本的知識および基礎的な生活技能を身に付ける。 2. 家庭科の学習が社会生活に大きく関わっていることを知り、社会変化に対応できる総合的姿勢と生活をよりよくしようとする実践的な態度を身に付ける。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 小学校家庭科教育における基礎的・基本的知識理解の確認。 (教科目標・家庭生活・衣・食・住・消費環境に対する知識を講義日程学習後に知識定着の確認を図る。) 課題 2 「家庭科実習指導における配慮および留意点について」を論述文にする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省 学習指導要領解説 (平成 29 年度告示) 解説 家庭編 東洋出版 【参考書】 検定教科書 私たちの家庭科 5・6 開隆堂 H31 年 『小学校新学習指導要領の展開家庭編』 明治図書 2017 年		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 家政学・生活科学全般の基本的知識および基礎的な生活技能が身に付いたか。 2. 家庭科の学びの広さが具体的にわかり、自らの生活をみつめ改善を図ることができるか。 ○評定の方法 ・授業態度 30% ・提出物 (小テスト、実技作品、課題等を含む) 70%		
12. 受講生へのメッセージ	家庭科の授業にも自分の生活にも役立つ授業、家庭や社会的事象へ関心を持ち、自分なりの社会的価値判断力を身に付けるきっかけになる授業を行っていきたくと願っています。さらに、新学習指導要領実施の内容をしっかりと学習理解し、これからの小学校家庭科教育のあり方についての考察を通して、小学校家庭科指導者として基本的な生活態度を身に付けて欲しいと思います。		
13. オフィスアワー	授業時に伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの説明 (授業の進め方など) 家庭科の学習内容 学習目的、小学校において進められている教育理念の確認、実習時に対する準備の連絡 学習指導要領変遷の概略について	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し、臨むこと。シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し、臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し学習の見直しを持つ。学習指導要領の改訂の概略と家庭科の変遷について理解しておく。
第 2 回	家庭科の教科目標・内容・学習内容区分の扱い方 現学習指導要領における基本方針について	事前学習	学習指導要領解説 pp. 12~19 家庭科教科目標 文言を中心に読んで授業に臨むこと。
		事後学習	H29 年告示における学習内容項目について p. 11 を基に確認する。
第 3 回	A 家族・家庭生活 (家庭科における具体的な学習展開) 知識確認 1 (教科目標)	事前学習	教科書 pp. 1~10 「改訂の趣旨及び要点」を読み、授業に臨むこと
		事後学習	学習内容項目「A 家族・家庭生活」pp. 20~31 の学習内容や題材構成について構想し現代社会の家庭のあり方と教科目標の関係性について考察しておく。 知識確認 1
第 4 回	B 衣食住の生活 衣生活 (4) 衣服の着用と手入れ、衣服の洗濯、日常着の手入れ・洗濯 被服材料・繊維の性質について。 衣生活 (4) の教材研究	事前学習	学習内容項目「B 衣食住の生活」 衣生活 (4) 衣服の着用と手入れ pp. 49~52 を読んで授業に臨むこと
		事後学習	「衣生活に関する基礎基本」を見直して確実な知識定着を図る。 知識確認 2
第 5 回	B 衣食住の生活 衣服の成り立ちについて小学生の発達段階を考え、衣生活の扱い方を構想する。 知識確認 2 (衣生活に関する基礎基本)	事前学習	衣生活に関する手入れ・繊維特徴などの理解と学習内容項目 B 衣食住の生活 pp. 32~33 をよんで臨むこと
		事後学習	「衣生活に関する基礎基本」を見直して確実な知識定着を図る。 知識確認 2
第 6 回	B 衣食住の生活 (5) 生活を豊かにするため布を用いた製作 縫い方の基礎基本をつかって小物の製作	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。
		事後学習	自分の体験 (小物製作実習) を振り返り、作品

	に取り組む ボタンつけ実習・製作実習		とB(5)について教材研究の仕方・指導の配慮点などをまとめ提出する。
第7回	B衣食住の生活 食生活 (1)食事の役割 社会変化とともに食生活の変化が見られることから食育における基礎を考えるとどんな学習が必要なのかを学ぶ。	事前学習	学習内容項目「B衣食住の生活」(1)食事の役割 pp. 34～41 を読み授業に臨むこと。
		事後学習	学習内容項目B (pp. 25～36) をまとめ、新しく入れた内容のポイントを確認しておく。
第8回	B衣食住の生活 (2)調理の基礎 単元「米飯、みそ汁の調理」の指導の要点 子どもたちの立場にたって実習を行う 米飯と味噌汁実習	事前学習	小学校における米飯・みそ汁の調理の量・手順を確認する。教科書 pp. 42～48 を読み授業に臨むこと。
		事後学習	米飯・みそ汁の調理実習をする。 実習の際の配慮点についての考察を提出
第9回	B衣食住の生活 (3)栄養を考えた食事 簡単な調理の基礎 知識確認3 (食生活に関する知識)	事前学習	「B 日常の食事と調理の基礎」7回授業の内容を中心に食生活に関する知識・理解を図る。教科書 pp. 52～57 を読み授業に臨むこと。
		事後学習	「食生活」の見直し、確実な知識の定着を図る。 知識確認3
第10回	家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開を題材構成や道徳との関わりから学ぶ。	事前学習	学習指導要領解説第3章 pp. 71～76 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	題材構成によって構想される単元の簡単な展開を作成する。
第11回	家庭科で実習指導を行う際に配慮すべき点について 小物製作・調理実習の視点から安全を図る手立てについて	事前学習	実習指導を行う際に配慮すべき点について学習指導要領解説 pp. 81～83 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	課題2「家庭科実習指導における配慮および留意点」についてまとめる。
第12回	B衣食住の生活 (6)快適な住まい方 住生活・環境への配慮・住まいの整理整頓や清掃など小学生の発達段階を考えた快適な住まい方の扱いについて	事前学習	学習内容項目「B衣食住の生活 住生活 pp. 58～63 を読んで臨むこと。
		事後学習	住生活の内容について指導ポイントをまとめておく。
第13回	C消費生活・環境 家庭科における環境教育の在り方と消費教育の扱い方について 知識確認4(環境・住生活に関する知識)	事前学習	学習内容項目「C消費生活・環境」 pp. 64～70 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	「住生活」C消費生活・環境の学習内容の確実な知識の定着を図る。 知識確認4
第14回	ポスターセッション1 A 家族・家庭生活 (地域との関わりを活かす教材工夫や内容構成について) C消費生活・環境 (SDGs など環境からの教材研究)	事前学習	学習指導要領解説 pp. 77～81 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	自分なりのテーマを決め、次時の発表に向け、資料あつめ、考察するなど準備する。
第15回	ポスターセッション2 NIE 学習について テーマを決め、新聞の記事などを基にまとめ発表する	事前学習	テーマを基に新聞資料を準備して授業に臨むこと。
		事後学習	知識確認1～4の復習をして定着を図る。
期末試験			